

【子】

私はサンタさんに会った四人には、性別も、年齢も、生活もちがうけど、共通点があると思いました。

それは、根はみんな優しいという事です。みんな、なにか自分のために願いを伝えるのかな？と、思ったけど、よその人のところへ行くように言っていて、自分より次の人の喜びを考えていたので、そう思いました。だから、自分の楽しいことや、嬉しいことだけを考えるのではなく、他の人のことも、しつかり考えて、生活していくことが、大切だという事に、改めて気づくことが出来ました。

【親】

ひとつだけ、何でも望みが叶うチャンスを、自分よりもつらい思いをしていそうな人に、譲る四人に、私も深い優しさを感じました。

その優しさを受け取った喜びと、次の人へつなぐ事が出来た喜びは、四人の心を温め、人生をよりよくする力になっていました。

さらに、イブの時間切れで、それは来年また別の人へ、受け継がれていきます。子供と続きを色々想像して、楽しくなりました。

自分がしてもらって嬉しかったことを、次は自分がしてあげられる人になる、その大切さに親子で改めて気付かせて貰えるお話でした。



私は、この本を読んで親友や周りの人の愛情の深さに感動しました。この本は、スウとジョンジーが芸術家村の三階の屋根裏部屋で、一緒に暮らしていましたが、ジョンジーが肺炎にかかり、医者は患者の生きたいという意志がない限りは、助かる見込みはないということをスウに伝え、ジョンジー本人は、『窓から見える向こうのレンガの壁にへばりついているつたの葉が落ちる時に、自分の命もおしまいだ』と、思っていました。

スウは、下の階に住んでいるベアマンに相談すると、はじめは、馬鹿で可哀想だと喚いていたベアマンでしたが、どうにか二人を幸福にしたいと心では願っていました。

雪混じりの冷たい雨が降り、激しい風が夜中続いて、つたの枯葉も、朝には残って居ないだろうと想像できたが、最後の一枚が残っていました。ジョンジーは、残り続ける葉に力をもらい、明るくなり、病気を克服します。

医者にもう大丈夫と言われた日、ベアマンが肺炎で亡くなります。雨風の晩、体が冷え切りながらも年を取ったベアマンが枯葉の最後の一枚が落ちた後、命かけて書いた葉に力をもらっていたふたりは、ベアマンの深い愛を知るのでした。

私は、今に傑作を書くぞと言っていたベアマンが、二人にとっての幸福の傑作を残したのを知った時、とても悲しかったし、人のためにここまで考え行動できる愛情に心を動かされ、感動しました。また、ジョンジーのために声をしたので泣いていたスウが、一生懸命励まし明るく振舞い続けた友情は素晴らしいと感動しました。

私もいつか、こんなに想い合える友人を作りたいと思いました。この作品を今読むことが出来て良かったと思います。



この本を読み終えて、感じたことは、よだかが死を選ばなければならなかったという、とても辛いお話なのに、最後に輝く星となり、その辛さがどこかへ吹き飛んでしまうような幸福感に包まれるという不思議な感覚でした。

姿が醜いために、みんなからバカにされ味方がいない中で生きていくことの辛さや厳しさをずっと感じていたよかは、本当に読んでいてかわいそうでした。自分の身に置きかえてみても、きつと耐えられない事の数々で絶望的になると思います。そしてたかに『明日殺す』と言われた一言。よだかは辛く泣きながらもカブトムシを食べている自分に気付きます。生き物は食べなければ生きていけない。せめてこんな自分だけは殺生をしたくないから死のう。そんな思いで、自ら死ぬことを選んだのだと思います。ここに、生きて行くことをあきらめたものの、どうしようもない思いを感じ、生きることの難しさを痛感しました。と同時に、自分が犠牲になればよいという、よだかの優しさも感じました。

最後に追い詰められたよだかが見せた、自分の力で願いを叶え、輝く星になる姿。それは私にどんなに辛くても自分の力で状況を打破することの勇氣と大切さを教えてくれたような気がします。加えて、自分を犠牲にして死を選んだよだかだから、今度は美しく輝く星となり、幸福感を得られたんだとも思いました。

『よだかの星』は、すぐ隣がカシオペヤ座だと本にありました。私も苦しい時、夜空を見上げて、よだかの星を探して、自分を元気づけてみようと思います。



【子】  
僕は、自分の所に、サンタクロースに『持って来てくれてありがとう』という気持ちがあってそれを、ほかの人にも『行ってください』と、サンタクロースに言って、そう思う人が増えていくからいいと思いました。その中でも、一番最初の人は、やってもらってもないのにしていたのはすごいと思いました。

【親】  
この物語を読んで、私も、目の前にサンタクロースが現れた時どう決断するかを考えてみました。

普段から自由が欲しいや、宝くじ当たらないかなとか、こうやって普通の暮らしが出来ているのに、それよりもっと欲が出て、たくさん望みがあることに、恥ずかしく思いました。ここに登場する人たちは、自分ではない、知らない他人のために、何でも叶えられる願いの権利を譲り渡せる、温かい心の和が、この物語のすごい所だと思いました。

私はこれから真似ができる様、細いことから困っている人に耳を傾ける様、自分が出来る行動を見直し、日々、暮らしていったらと思いましたが。

このコロナ禍でも、そうです。一人一人がもつと行動に責任を持ち暮らしていたら、早く収束するのにも思っています。

皆、完璧ではありません。だけど、少しの勇氣や、思い合いの心で、この世の中は、素晴らしい世界になるでしょうね。

「最後の一片」

六年生

僕は、この物語を読んで、『すごいなあー』と思いました。理由は、ベアマンさんが、枯葉のふりをした絵を雨風の中でも、ジョンジーのために、心がけなどをして、書いたりしてすごいなあと思いました。

ジョンジーが、前向きになれないのは、わかる気がします。なぜなら、絶対に、治らない肺炎という病気は、あまり、治りにくい病気と知り、自分もそれにかかってしまっているの、自分で頑張ろうと受け止めたりますまで、マイナスな言葉を言ってしまうのがわかるからです。

【父】

ベアマンさんが、『カッコいいな』と思った。

今まで、大した絵が描けなくて、口ばかりだったけど、二人を幸せにしたい思い、ジョンジーを助けたい思いから、自分の命をかけた人生最後の大作が書け、真の画家になれたから。誰かのために、行動できる男は、カッコいいと思います。

【まとめ】

この物語は、人の正義感や、やるときは、しっかり自分の何かを託してまで、大切な人を守るということを学びました。僕も、たとえ口だけで無く、ベアマンさんのように、誰かのために、大切な人の為に、行動したり、正義を貫くなど、カッコいい男でありたいです。



「ある夜の物語」を読んで

六年生

本当のサンタクロースが来て、望みを叶えてくれると言っている中、『僕よりも、もっと気の毒な人がいるはずだ。その人のところへ行つてあげてください。』と言う事はできますか？私だったら無理だと思います。例えば、『お金が欲しい。』などと言つても、かなえてくれるのです。そんな中、別の人のところへ行つてあげてくださいと、言える人はすごいと思います。

そして、そんな人が何人も何人も居ると、とても優しい人であふれた世界ができると思いました。いつか私が大人になる頃には、この物語に出てくるような人がたくさんいる世界になって欲しいと思えました。他にも、サンタクロースはどんな風に思つたのか考えました。

私が考えた中では、みんなが他の人のところへ行つてあげてくださいと言っていたので、とても驚いたのではないかと思います。一番最初の人が一人で寂しそうだったから、サンタクロースはその人のところへ行つたのに、『僕よりも、もっと気の毒な人がいるはずだ、その人のところへ行つてあげてください。』と言われて、別の人のところへ行つたら、『よその人のところへ行つてあげたら。私よりもっと気の毒な人がいるはずよ。』と言ったのが、たくさん続いたということでした。

こんなに優しい人がたくさん登場してくる物語です。ぜひ読んでみてください。